

かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

がん医療、私達の願い

日本国民の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなりになる時代になりました。がんは高血圧、歯の病気、糖尿病について4番目に多い病気であり、しかも年々増えています。がんはもはや特別な病気ではなく、誰もが関心を払わねばならない病気になっています。しかも、治療成績も昔に比べれば格段に向上しています。

この疾患に対応すべく、当院は様々な体制を整えています。医療支援センター内に「がん診療相談室」を開設し、がんに対する疑問や不安、悩みにお応えしています。相談内容により医師、薬剤師、栄養士などご紹介致します。また、東棟玄関プロムナードの医療情報サロンの中に医療関連の書籍を集め、皆様方が自由に閲覧できるようにしています。

当院は平成18年8月に「がん診療連携拠点病院」に指定されていますが、全国で26番目に、また県内では1番多くのがん患者さんを治療しています。各診療科は日々研鑽を積み全国最先端の診療を行っており、他院の患者さんの治療方針選択のお役に立てられるようにセカンドオピニオン外来も開いています。これら、当院の持つ機能を十分にご活用され、納得のいくがん医療を受けていただくことが私達の願いです。



● 広島市立広島市民病院
副院長 二宮 基樹

医療情報サロンのご案内

開室時間 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・8/6・12/29～1/3を除く)

※毎月第2・4火曜日は「こころのサロン」開催のため
15時に閉室いたします。

場所 1階プロムナード 売店前

- 闘病記やエッセイ、食事療法や化学療法など「がん」を中心とした医療関係の図書が閲覧できます。
- 各種がんの冊子、医療用フィックなどのパンフレットもあります。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのために、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

不易流行

患者さんのために 変えないもの 変えるもの

事務長

藤田 進



少子高齢化、医療制度改革、長引く景気停滞、市民(患者)の医療に対する要求の多様化など病院をとりまく環境は大きく変化しています。

このような環境変化への対応に関して、松尾芭蕉は「不易流行(ふえきりゅうこう)」という言葉を残しています。不易とは、「時代や環境の変化によって変えてはならないもの、不変の原理」であり、流行とは、「時代や環境の変化に従って変えて行かなければならないもの」という意味です。

俳句は五七五の十七文字とすることや必ず季語を入れることなどが決まっている(不易)ため、常に新しい句材や表現(流行)を取り入れることをしないと陳腐な俳句となってしまう、ということがその意味するところです。

当院にとっての「不易」は「患者さんと協働して心のこもった安全で質の高い医療を行います」という「基本理念」です。これを全職員が共有して医療や経営を推進しています。

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

三つの柱

- 1 チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
- 2 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
- 3 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

また、当院は基本理念を実現するための3つの柱を掲げています。この三本柱の個々の事項、例えば「チーム医療の推進」「地域医療機関との連携」「健全な病院経営」などは、変化する医療環境や市民意識などに適合するよう、常に見直していきます。即ち「流行」の実践です。

当院では、平成26年4月1日より他の市立3病院とともに「地方独立行政法人広島市立病院機構広島市民病院」として新たにスタートします。地方独立行政法人化の目的は、環境変化に迅速かつ柔軟に対応して広島市の中核病院として市民の皆様へ安全で質の高い医療を継続的に安定して提供する

ことにあります。

これからも、基本理念をしっかり守りながら、独立行政法人の特徴である柔軟で自由度の高い病院経営を行うことで、皆様方に質の高い専門的で安全な医療を提供してまいりますので、当院の診療、経営に関して、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。



外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科/火・木曜日
午前10時00分まで

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか1,570円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

放射線治療科の紹介

近年の放射線治療の進歩は目覚ましく、強度変調放射線治療 (IMRT)、画像誘導放射線治療 (IGRT)、定位放射線治療 (SRT) などの高精度放射線治療が急速に普及しつつあります。このような背景から、放射線治療を受けられる患者さんは右肩上がりが増加傾向にあります。当院においてもその傾向は明らかで、年間放射線治療患者数は10年前と比較して倍増しています。日本では長い間、放射線科の一部門として放射線治療が提供されてきました。しかし、昨今の放射線治療情勢から、放射線診断部門と放射線治療部門との分離が強く求められるようになりました。当院でもその流れを受け、地域がん診療連携拠点病院として高精度な放射線治療を提供するという役割を果たすべく、

2011年4月1日付けで放射線治療科が新たに開設されました。現在、当科には高精度放射線治療対応の外部放射線治療装置 (リニアック) 1台、遠隔操作式密封小線源治療装置1台が配備され、毎日55~65人、年間750~800人の患者さんを治療しています。当院での年間治療患者数は国内トップクラス (広島県内第1位) の実績です。

■ 放射線治療のメリットは？

放射線治療には、“臓器の機能・形態の温存”、“がんによって欠損した組織の修復”というメリットがあります。さらに“早期がんから進行がんまで”、“頭の方から足の先まで”、“根治治療から緩和治療まで”、広い守備範囲で患者さんのお役に立てるということもメリットです。

また、放射線を照射しても体に痛みや熱さを感じることはなく、放射線を照射する時間も数分と短いため、状態の悪い患者さんや高齢の患者さんも負担なく治療を受けることが可能です。

松浦部長
(放射線治療専門医 がん治療認定医)

からのメッセージ

私どもの放射線治療科では、他診療科と連携して患者さんに最適な放射線治療を提供できるように努めております。放射線治療科のモットーは、“がんを治すのではなく、がん患者さんを治す”です。それを達成するために、放射線腫瘍医、放射線治療技師、看護師、事務職員からなる“放射線治療チーム”として一致団結し、治療にあたっています。そして、それぞれの職種が技術、長所を生かして、患者さんに安心して放射線治療を受けて頂けるように心がけています。

吉崎副技師長
(放射線治療専門技師 放射線治療品質管理士)

からのメッセージ

当科では、2008年から、照射直前に治療装置自身で撮影したCT画像をもとに位置誤差を修正するIGRTという技術を用いて、ミリメートルの位置精度で照射を行っています。これは、IMRTやSRTなどのいわゆる『高精度放射線治療』に限らず、従来法の照射においても照射位置精度を担保する上で有用な技術であり、これまで以上に精度の高い放射線治療が可能となりました。ただし、装置自体の精度管理もこれまで以上に重要になっており、当院では機器の幾何学的精度、線量精度を維持するために、放射線治療品質管理委員会(平成22年)および放射線治療品質管理室(平成25年)を設け、システム全体の品質管理・品質保証に努めています。どうぞ安心して放射線治療をお受けください。

中蔦主任看護師

からのメッセージ

放射線治療について良いイメージをお持ちの患者さんは少なく、多くの患者さんが不安を抱えて放射線治療科を受診されます。私たち放射線治療科看護師は患者さんが安心して放射線治療を受けられるように、治療の流れや副作用などの情報提供、放射線治療中の生活指導などを行っています。また、心と体のケアも行い、安心できる治療環境を提供できるように努めています。不安に思ったり困ったりすることがあれば、どんな些細なことでも、いつでも遠慮なくご相談ください。



看護部 救命救急センター

ひとりでも多くの生命を救い、支えるために



カンファレンス中

救命救急センターでは地域の救急医療の担い手として、心臓疾患・脳血管疾患を中心に緊急入院、検査、治療、手術を24時間体制で行っています。ひとりでも多くの皆様の命を救うため、救急医療チームとして他の医療職者と協力し合い、治療・看護にあたっています。

緊急に入院される患者さん、ご家族の皆様のご心配や不安を少しでも和らげることができるよう、身の回りから精神面までサポートできるように心がけています。

安心・安全で高度な医療を提供できるよう、常に高い技術を磨くことにも力を入れています。



心肺蘇生の訓練中!!

闘病中の子どもたちにワクワクを!

「ホットアートプレゼント」プロジェクト



びりとブッチーのコンビの楽しいパフォーマンスが初めて東9A病棟にやってきました。これは「入院中の子どもたちに、つらい治療や病気を一瞬でも忘れ楽しいひと時を過ごしてもらいたい」と子どもNPO・子ども劇場全国センター「ホットアートプレゼント」プロジェクトでプロのアーティストによるクラウン (道化) やパントマイム、バルーンアートなど楽しいひと時をみんなで体験し子どもやその家族、医師、看護師、保育士など小児科病棟全体でほっとできる時間を過ごすという企画です。

当日はプレイルームに集合し、びりとブッチーの歌や踊り、パントマイムやバルーンアートに子どもたちは目を輝かせました。急性期や感染の心配のある子どもたちにも二人はバルーンアートをもって病室訪問をしてくれました。どの子のベッドにも二人が作って

くれたバルーンアートの風船がいつまでも楽しそうに揺れていました。

子どもたちが笑顔になると付き添っているお母さんや、医師や看護師まで元気になり病児の生活の質の向上や介護する保護者、病院スタッフの心のケアなどさまざまな面でプラス効果があると感動しました。

病棟では現在保育士7名の配置があり、病棟内での季節の催しものや人形劇、読み聞かせなど行事も充実してきています。子どもたちが笑顔で過ごす時間が少しでも多くなるように医療スタッフ全員で協力し頑張りたいと感じた時間でした。

